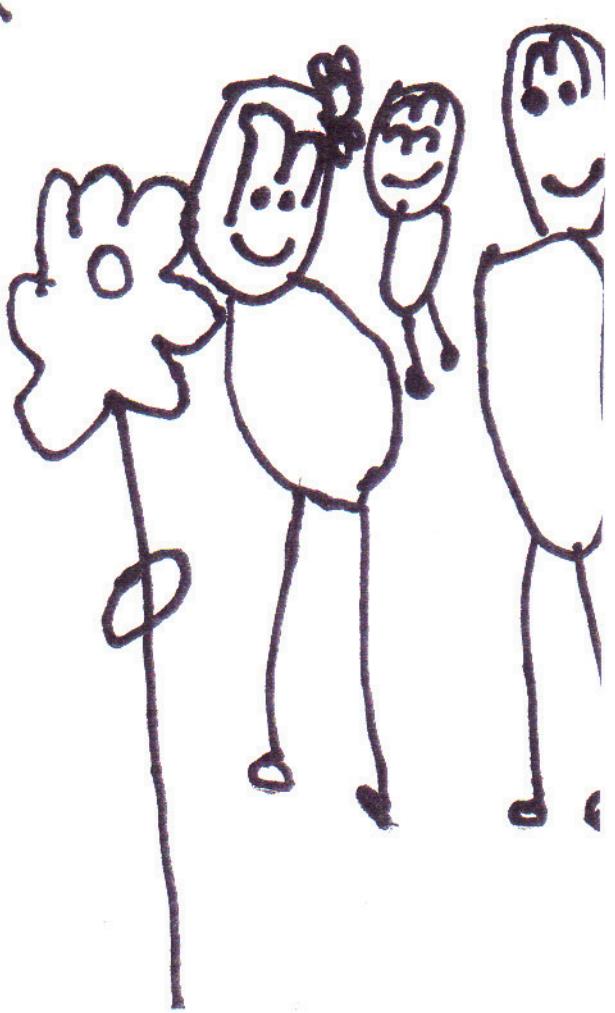
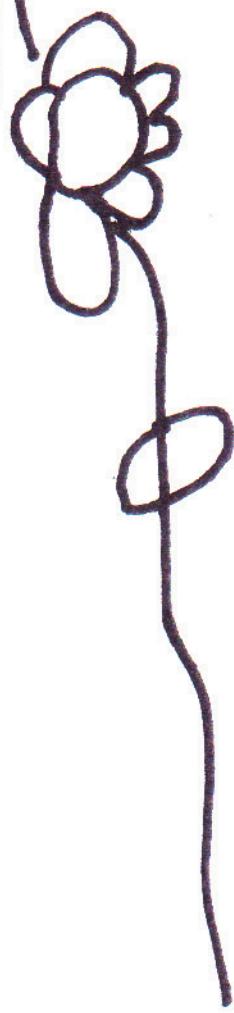


よ  
よ  
た  
ち  
ま  
く  
通  
信

7月



さくらいひばり  
5才





今月号の表紙は

、きれいな虹が

かかっているところに元気にお花が咲いていて、とても楽しそうにあそんでいる

すてきな絵です。ハートもいっぱいです。

かわいらしいです。♥

おりがみが趣口味で、ビーズ作りなど、  
女の子らしい事が好きなんですね！幼稚園の  
たまごの練習や、歌を歌う事も  
得意な笑顔がかわいい女の子  
かいくださいました！

院長はじめスタッフ一同、心より感謝いたします！



詩や歌によくある様に、人生は道に置き換えられる。人生(道)はどこに向っていくのか、又続いていくのかなんて(自分のことなのに)實際、誰にも分からぬのです。従って将来(未来)への不安は全ての人に存在します。しかし、心術(心の持ち方)を変えれば、それもまた人生の面白さの一つであり、それはばかりか人生の闇を越えていく所にこそ醍醐味があると評する人もいる位です。

時に「よ・たち」にも論語の章句を書くことがありますか、私は数年前から自己流であるものの、論語を学ぶ様になりました。今回は最近私が好きになった章句を示したいと思います。「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」。ある朝、人との道がなんであるかを知ることが出来たなら、その日の夕方に死んでしまっても私はかまわぬ、という意味です。

この解釈の背景には孔子が不遇の戦乱の時代を生きてきたことが関係しています。

孔子は人の道とは何たるかを追求していくことを生涯のテーマとしていたはず"です。もし誰かが孔子に、道とはこういうやうのだと教えてくれたとしたら人生の目的そのものがなくなってしまいます。つまり例えて言うならこうことです。小学生に「あなたが30歳になった時、こんな大人になって、こんな仕事をしています」と誰かが教えてくれたらどう思う?と尋ねると、全員口を揃えて「つまらない」と答えます。同じ質問を高校生に聞くと「樂でいいじゃん」となります。つまり、もと結果が分かっていたら危ないことや困難なことは避けられるかも知れませんが、思いかけなしの喜びや感動、目標を達成した時の感激には出合えないでしょう。先から分からないからこそ面白いのが人生であり、自分で変えていったり自分で創り上げていくところに醍醐味があるのです。

「ロープウェイで来た人は登山家と同じ太陽を見る出来ない」。フランスの思想家アランの諱である。この金言もまた、暗中を模索しながら到達した者にのみ与えられた世界観であろう。院長 拝